

令和6年度 学校自己評価(計画段階)

学校法人美萩野学園小倉日新館中学校長 印

学校運営計画(4月策定)		評価(総合)		
学校経営方針	校訓「自主自律」「創造立志」を教育の基盤とし、知・徳・体の調和を重視した教育活動を推進することで、「確かな学力」と「心豊かで創造性に富んだ人材の育成をな生徒を育成する」。「美顔と感動 実践力を持った学校 日新館中学校 ～ 模範で育つ 行事で育つ チームで育つ ～」			
本年度の目標(昨年度の成果と課題)	本年度重点目標 <p>具体的目標</p> <p>1 生活信条「自主自律」「創造立志」を本校の教育基盤とした、教育活動を推進することで、「主体的に学ぶ態度を育成し、基礎的・基本的な知識・技能の習得や、思考力・判断力・表現力を育てる」ことを目標とする。また、「円満な人格の形成を図るために、生徒の健康な心身の育成及び将来に向けた社会的自立と社会参加を奨励し、高い志と自律心のある豊かな生徒を育成する。</p> <p>2 職員のスモールアップ(授業力の向上)に向けた取り組みを加速させるためのICT機器を活用した授業づくりを促進する。</p> <p>3 研修の機会を増やすことで、職員並びに生徒の中で人権意識を高める。更に日常的な教育活動の中においても人権教育の充実を図る。</p> <p>4 「手厚い指導」と「最小限度の支援」を目指し、生徒の人間力を引き出し、未来を想像できる力を育成する。</p> <p>○授業改善をより一層徹底、教育活動の向上を図り生徒が高い志を持って意欲的に学ぶ学力の育成</p> <p>○少し困難な目標設定「生徒が安心して、主体的に取り組める手厚い指導と最小限度の支援」「達成感を高める賞賛、行動の強化」を実践</p> <p>○カリキュラムマネジメントを進め、本校の特色を生かした適切な教育課程をPODCAサイクルに基づき充実</p> <p>○教師と生徒の人権意識の高揚に努め、生徒一人ひとりの人権が尊重される授業づくりの実践</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進し、観点別評価による学習評価をさらに充実することで、能動的な学習態度を育てる。</p> <p>「カリキュラム・マネジメントを推進し、「思考力・判断力・表現力」を育てる。</p> <p>「何事にも失敗「つまり」を恐れず、粘り強く取り組み精神力を育てる。(手段と方法)</p> <p>「経験、体験等を通じたキャリア教育を推進し、高い志を持ち、自らの進路を選択する力を育む。</p> <p>「不見と流行」等正しい発信力を身に付けさせることで、思いやりや感謝の気持ち育てる。</p> <p>「授業、学級活動、学校行事等を通して自己有用感を高め、協調性を育てる。</p> <p>「公共の精神に基づき、いじめや差別を絶対に許さない意識や態度を育てる。</p> <p>「生徒一人ひとりに早い段階での自覚と意識を持たせることで、主体的に社会の形成に参画する態度を育てる。</p>			
具体的目標	具体的方策	評価(2月)	次年度の主な課題	
教科指導	個に応じた指導の実践	一人一台端末を効果的に活用した学習活動の更なる充実及び「主体的」「対話的」深い学びの実践。 爽やかな挨拶、規律ある学校を目指し、スモールステップの形成的評価を実践し、基礎基本の徹底を図る。 観点別評価の更なる充実とその質を高める。		
	高い志を持って意欲的に学ぶ生徒の育成	授業中における演習や実習時間を確保することで、論理的思考力や問題発見力、行動力・実行力などについて能動的な学習態度を育てるとともに生徒の主体性を伸ばし、確かな学力の定着を図る。 一人ひとりの教育的ニーズに応えられるよう、学年・教科及び進路と連携を図り、適切な課題を課すとともに、学習時間の進捗調査などを行う。 主体的・対話的で深い学びが実現できるように「最小限度の支援」を実践し、生徒主体の授業づくり・授業改善に努めるとともに、ICT機器の積極的な活用や教材開発・研究を奨励する。		
生徒指導	自己指導能力の向上	学校行事を通して、リーダーシップやフォローアップの精神を身につけると共に、共感的人間関係の育成を図る。 教育活動全般において、不易なものも流行を考えさせることによって、自ら考え適切な行動を実行できる能力を育む。 学校行事や学級活動を充実させ学校活性化を図ると共に、ボランティア活動などの校外活動に積極的に参加させることにより、生徒の自己有用感を高めていく。		
	健康等における自己管理能力の育成	健康に関する面談を実施して、担任、保護者、学校医、(カウンセラー)等の連携を図る。 薬物乱用防止教育、救命救急講習会等保健に関する健康教育の円滑な運営に努める。		
進路指導	生徒の自己実現の実現に向けた進路指導の実践	各学年ごとに進路に関する学習計画を推進していくことで、生徒自身の進路を自ら選択する力を養う。 グループ活動や学年及び学校発表の機会を増やし、コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力の育成に努める。 様々な外部との連携を図ることで、生徒の主張を外部で発表する機会増加に努める。		
	進路希望の実現	第一志望への合格100%を目指し、生徒の進路希望を考えながら個に応じた進路指導を実行する。 実践力を身に付けさせるような授業内容とするように努める。また、様々な対策を早め早め実践し、生徒の進路意識の向上を目指す。 英語技能検定や様々な検定へチャレンジさせ、幅の広い進路選択を目指す。		
広報活動	幅広い広報活動	公開授業やオープンスクールなどを充実させ「見える」化ができるよう内容を見直し、計画を立てる。各分掌との連携を取り実施する。 塾・小中学校訪問を計画的に実施する。全職員で訪問することで、職員の広報活動への意識を高める。 出前授業や説明会の要請を受け出席する。出前授業については教科に依頼する。		
		教育活動の全領域において人権尊重の視点に立った取組を推進する。 すべての生徒の進路を保障する取組を推進する。 教員の人権意識の向上を図る。「手厚い」指導を心がける。		
第1学年	小倉日新館中学生としての誇りと自信を持った生徒の育成を図る	時間やルールを守り、挨拶やマナーなど他者への配慮を大切にできるよう心がける。 各自の役割が果たせるよう、生徒一人ひとりが主体的に行動できる学年集団の構築に努める。 自らが基礎・基本の大切さを理解するためにも、中学生としての人権意識の向上を図る指導に努める。		
		中堅学年としての更なる意識の向上と、人間性豊かな学年集団を構築する。 「手厚い」生徒理解・指導と、「最低限度の支援」を明確にし、個々の自主性を伸長するよう掛ける。 周囲を見て全体の事を考え、協働できる生徒の育成と、具体的な進路意識を高める。		
第2学年	中堅学年として他者と共同しながら、人間性を高め学力の充実・慎重を図る	中堅学年としての更なる意識の向上と、人間性豊かな学年集団を構築する。 「手厚い」生徒理解・指導と、「最低限度の支援」を明確にし、個々の自主性を伸長するよう掛ける。 周囲を見て全体の事を考え、協働できる生徒の育成と、具体的な進路意識を高める。		
		集団として受験に向かう姿勢を大切にし、第一志望校100%を目指す。 全てにおいて前向きに取り組める雰囲気を作りながら、自ら学び向かう生徒の育成を目指す。 集団に貢献する心情と周囲への感謝の念を抱くよう、人権意識の向上を目指す。		
第3学年	将来の希望を叶えるための進路実現と、一人ひとりで成長できる生徒の育成を図る	集団として受験に向かう姿勢を大切にし、第一志望校100%を目指す。 全てにおいて前向きに取り組める雰囲気を作りながら、自ら学び向かう生徒の育成を目指す。 集団に貢献する心情と周囲への感謝の念を抱くよう、人権意識の向上を目指す。		